

美祢市立図書館複合化施設整備基本設計業務 基本設計概要版

2025 年 10 月

美祢市

東畑・巽設計コンサルタント設計共同体

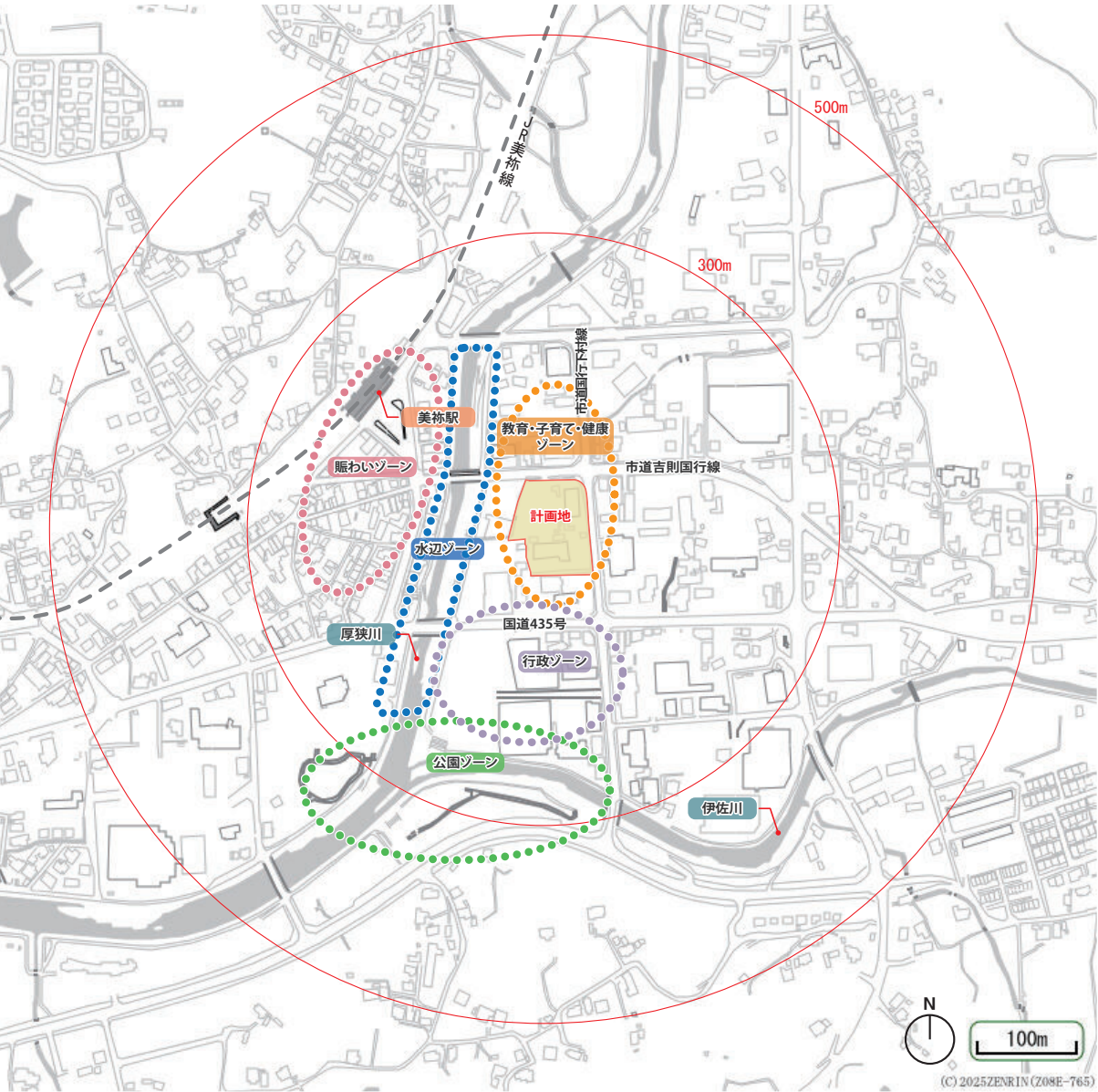
【建築計画】

(1) 計画説明書	01
(2) 仕様概要書	02
(3) 配置計画	03
(4) 平面計画（各階）	04
(5) 断面計画、環境計画	05

【基本設計図】

(1) 配置図兼 1 階平面図	06
(2) 2 階平面図	07
(3) ピット階平面図・屋根伏図	08
(4) 断面図	09
(5) 立面図	10

■ 広域的立地



【計画地周辺広域図】

美祢市は山口県の西部中央に位置し、国定公園秋吉台と特別天然記念物秋芳洞に代表される豊かな自然に恵まれたまちです。市の中心部には伊佐川と厚狭川が流れ、沿川には桜並木が広がっています。

当市では「美祢市中心市街地地区 Mine デザインノート（令和6年2月）」を策定し、市中心部を「水辺ゾーン」「賑わいゾーン」「行政ゾーン」「公園ゾーン」「教育・子育て・健康ゾーン」とゾーニングし、「えき・みち・かわが繋がりが 人が主役となるまちなか美祢リビング」を全体コンセプトとしてまちづくりを進めています。

■ 敷地概要

建設地：美祢市大嶺町東分 347 番地 1, 345 番地 3, 341 番地 3, 345 番地 1 他

敷地面積：6,230.90㎡（南西側接道部分を除いた場合：5,815.26㎡）

用途地域：非線引き都市計画区域内、商業地域

防火地域：準防火地域

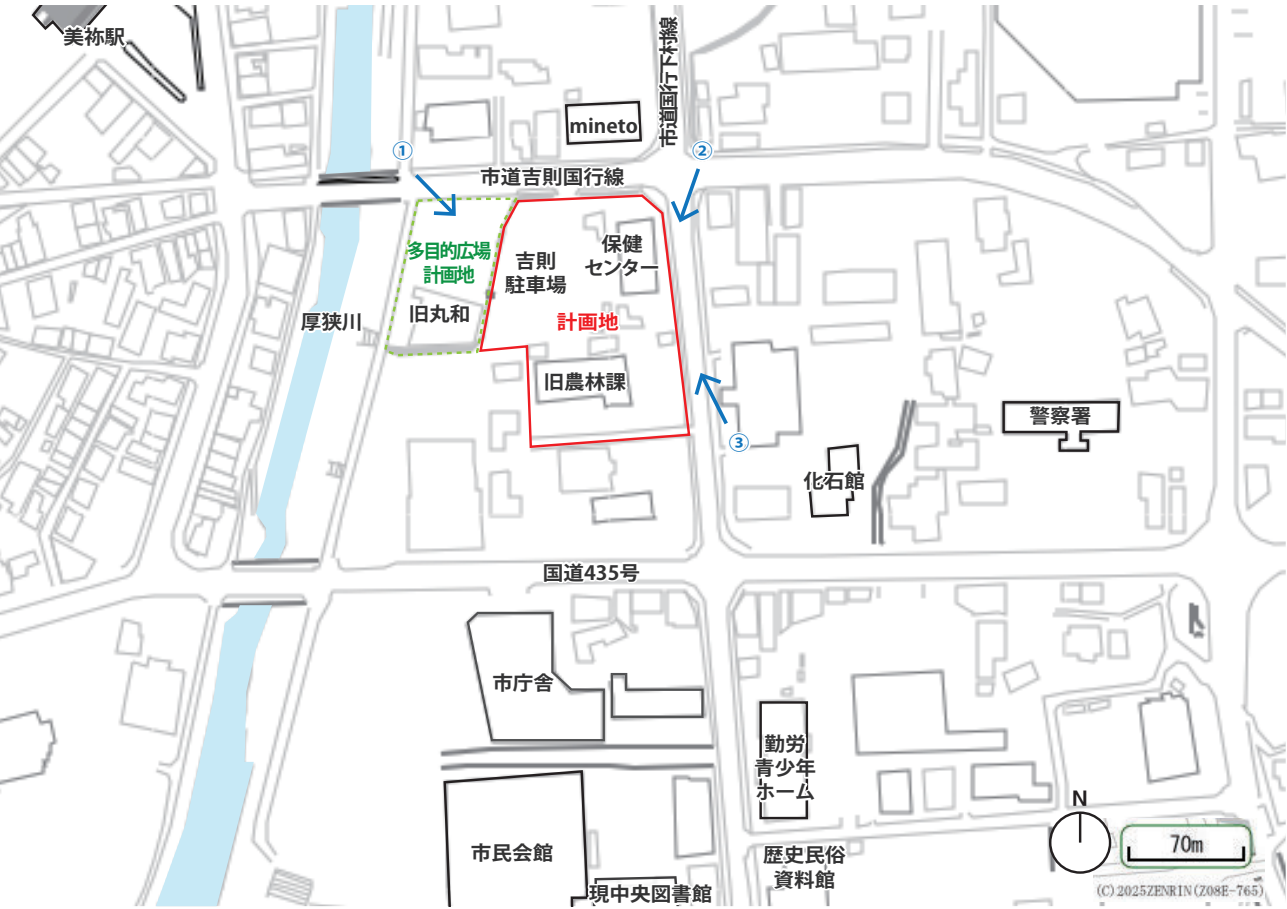
その他地区：都市機能誘導区域、宅地造成等工事規制区域、浸水想定区域

指定建蔽率：80%

指定容積率：400%

前面道路：北側 市道吉則国行線（幅員 約 12m）
：東側 市道国行下村線（幅員 約 12m）

■ 付近見取図



【計画地周辺配置図】

旧丸和敷地、吉則駐車場、旧農林課敷地、これに一体的に整備する保健センターを含めた敷地を計画地とします。

中心市街地に位置し、北側は市道吉則国行線、東側は市道国行下村線に面し、二方向の道路よりアクセス可能な立地となっています。最寄駅の JR 美祢駅からも徒歩 4 分でアクセス可能な交通の便のよい立地条件となっています。また、複合化される公設塾 mineto や勤労青少年ホーム、サテライト展示として連携する化石館や歴史民俗資料館からも近い位置にあります。厚狭川に面する西側隣地には多目的広場を整備する予定であり、厚狭川沿いの桜並木との関係性を考慮しつつ、本計画と一体的な整備を想定しています。



①市道吉則国行線側



②市道国行下村線側 北側より



③市道国行下村線 南側より

■ 建築概要

主要用途：【建築基準法】08140（図書館）
：【消防法】8 項（図書館）＋ 15 項（運動施設）による 16 項（口）複合用途

建築面積：1,433.61㎡

延べ面積：2,396.53㎡

建蔽率：23.01%

容積率：38.27%

最高高さ：12.50m

軒高：11.17m

階数：地上 2 階

構造：鉄骨造

地業：杭基礎および直接基礎＋浅層改良

1. さまざまな活動をつなぐ場

■まちの交流拠点となる施設計画

- ・「歴史（むかし）をたずね、現在（いま）を知り、未来（あした）を育むわたしたちの『ひろば』という基本理念*のもと、図書館を核としたまちの交流拠点を目指します。各機能が有機的に複合化されることで「重ね使い」を誘発させ、活動がつながる場所を目指します。これまで図書館を利用していなかった市民にとっても開かれた施設として、あらゆる世代の居場所をつくります。

*「美祿市立図書館複合化基本計画（令和6年10月）」より引用

■まち全体を活性化回遊性の創出

- ・計画建物は敷地北東角にコンパクトに配置し、多目的広場や駐車場を広く確保します。施設南側にはまとまった外部スペース「とおりにわ」を設け、まちの回遊性を高めながら、多目的広場と一体的なイベントスペースとしても活用できる空間を計画します。



【多様な活動の結節点となる施設】



【北西からの鳥瞰イメージ】

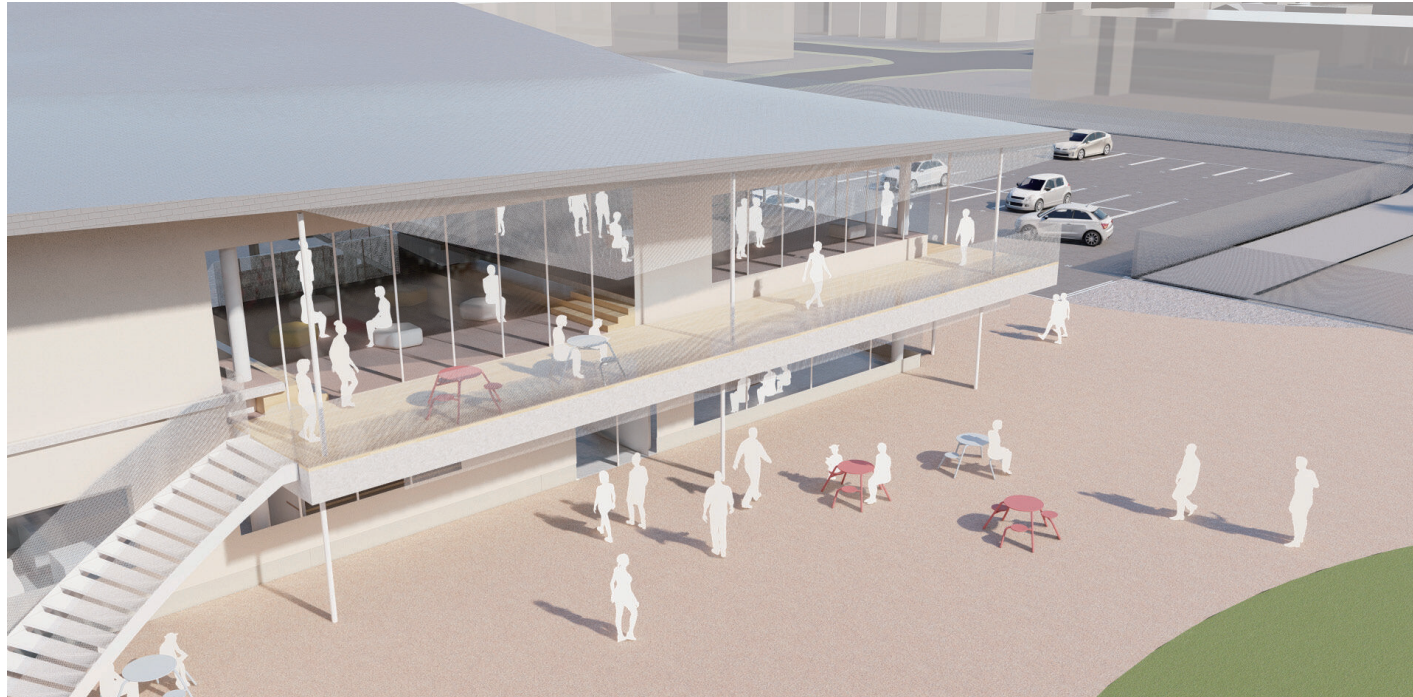
2. 活動の幅を拡張する「美祿テラス」

■半屋外を利用した多様な活動

- ・深い庇に守られ雨天時でも利用可能な半屋外空間「美祿テラス」を設けます。
- ・読書、ランチ、勉強など、多様な活動を豊かな風景を楽しみながら行うことができます。

■多目的広場との有機的連携

- ・「美祿テラス」は多目的広場の舞台や観覧席にもなります。
- ・屋外階段を介して直接の往来も可能な計画とし、多目的広場と施設をつなぐ場となります。



【「美祿テラス」のイメージ】

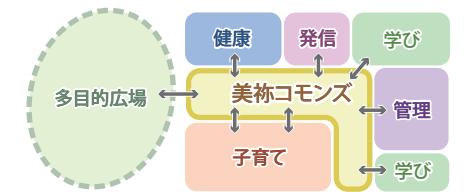
3. 様々な機能が有機的につながる「美祿 commons」

■多様な活動が混ざり合う「美祿 commons」

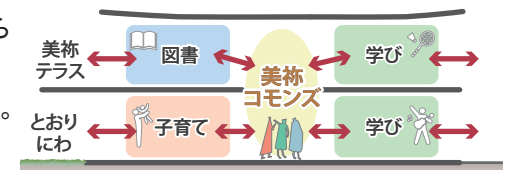
- ・施設中央に各機能をつなぐ多機能共用空間「美祿 commons」を設けます。
- ・日常的には、読書スペース、サテライト展示スペースなどとして機能します。また、隣接する活動室と一体的なイベントなどに活用することも可能です。
- ・様々な機能が「美祿 commons」に面する構成とし、活動の有機的連携を実現します。

■本と市民活動の見える化

- ・「美祿 commons」は、施設全体を立体的につなぎ、多様な活動を身近に感じられる計画とします。
- ・活動室間仕切壁にはガラス壁や窓を設け、内部の活動の見える化を図ります。



【活動が混ざり合う場所】



【活動が見える場所】



【「美祿 commons」のイメージ】

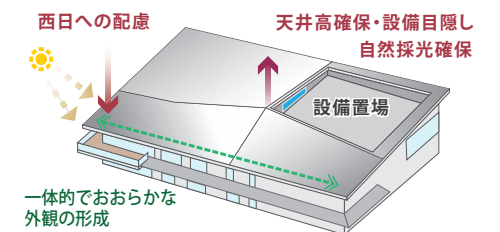
4. 建物ボリュームの最適化

■階高・建物高さのコンパクト化

- ・内部の機能に必要な天井高さを確保しながら、無駄のない階高設定とすることで、躯体・外皮率・光熱費の縮減化を図ります。階高を抑えることでコストを縮減を図りながら、安全かつ上下移動もしやすい、利用者にやさしい計画とします。

■内外の環境に呼応する大屋根

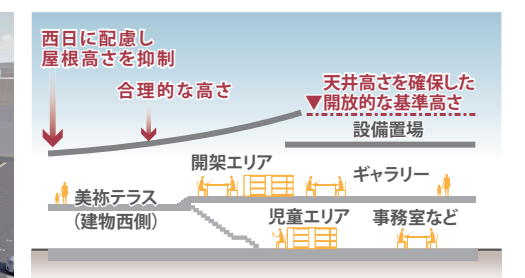
- ・内部の機能や方位、周辺の環境に応じ、大屋根が緩やかに内外を繋ぐ構成とします。
- ・建物ボリュームの最適化を図る大屋根により、様々な居場所が緩やかに繋がると共に、周辺の環境に呼応した親しみやすい外観を形成します。



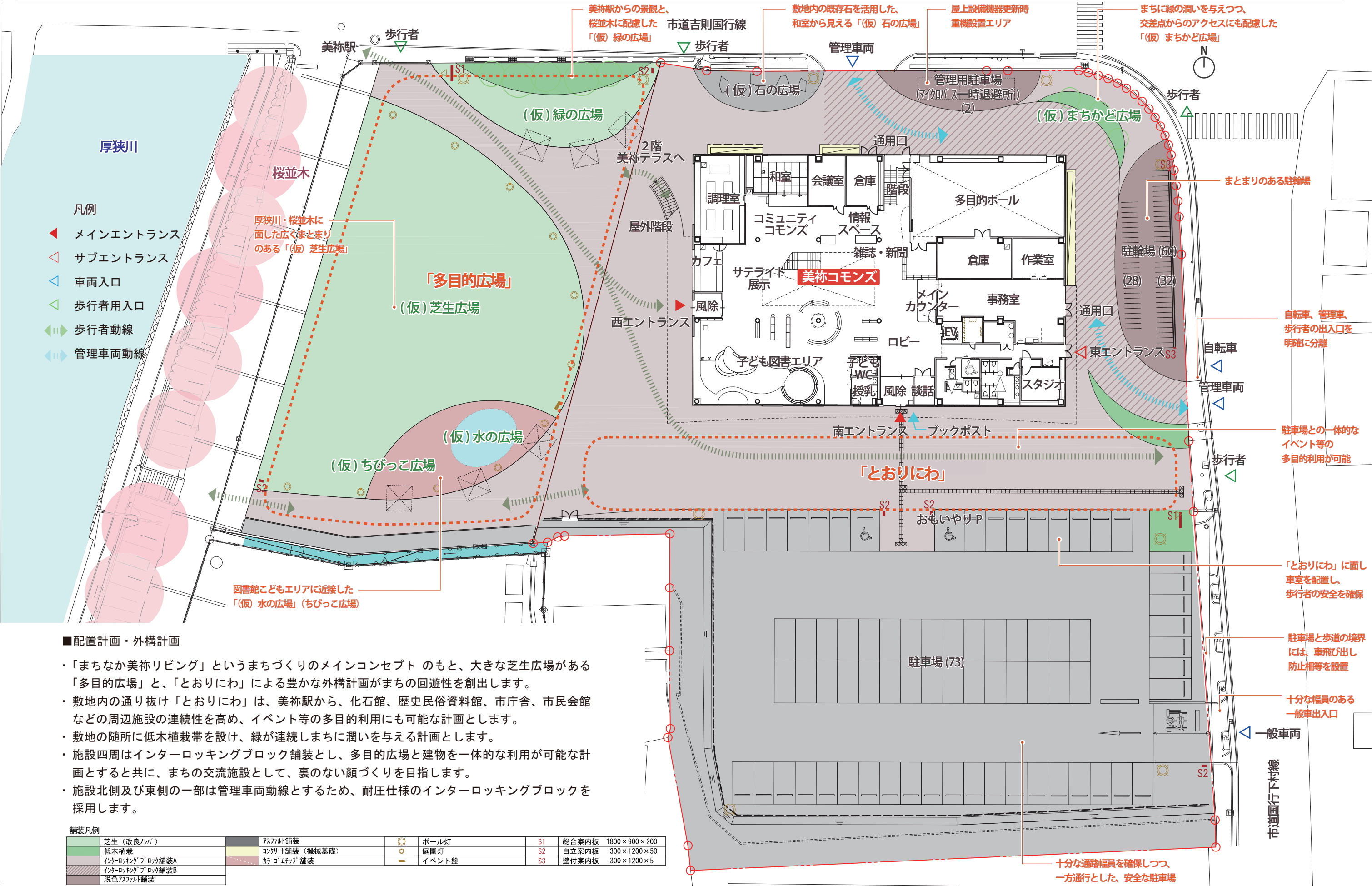
【環境に呼応する大屋根イメージ】



【周辺環境に呼応する南西外観イメージ】



【コンパクトで利用しやすい断面イメージ】



■ 平面計画

■「重ね使い」による合理的な平面計画

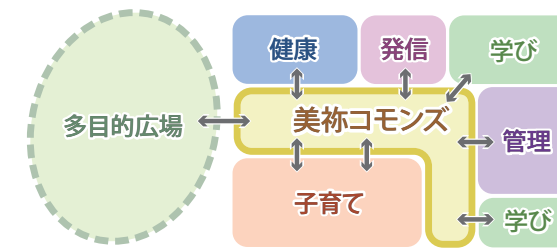
- ・各機能が有機的に複合化されることにより、従来の使い方に加えて相乗効果による機能充実を図ります。各エリアの稼働率が高くなるように「重ね使い」を意識し、各室の面積を最適化することで無駄のない平面計画を実現します。

■「ついで使い」による、あらゆる世代の居場所づくり

- ・これまで図書館を利用していない市民にとっても開かれた施設とします。特に、子どもや学生、若者世代が自習やカフェの「ついで使い」として図書館を利用できるように、各機能を図書館を中心に面して配置します。

■多様な活動が混ざり合う「美祢コモンズ」

- ・施設中央に各機能をつなぐ多機能共用空間「美祢 commons」を設け、日常的には、読書スペース、サテライト展示スペースなどとして機能します。また、隣接する活動室と一体的なイベントなどに活用することも可能な計画とします。



■開架閲覧室 冊数
・蔵書数(1段につき、一般図書35冊、児童
図書50冊として計上)

室名	冊数
一般書架（雑誌・新刊含む）	28,985
ジオパーク・郷土資料	1,000
児童開架スペース	9,600
えほんコーナー	1,200

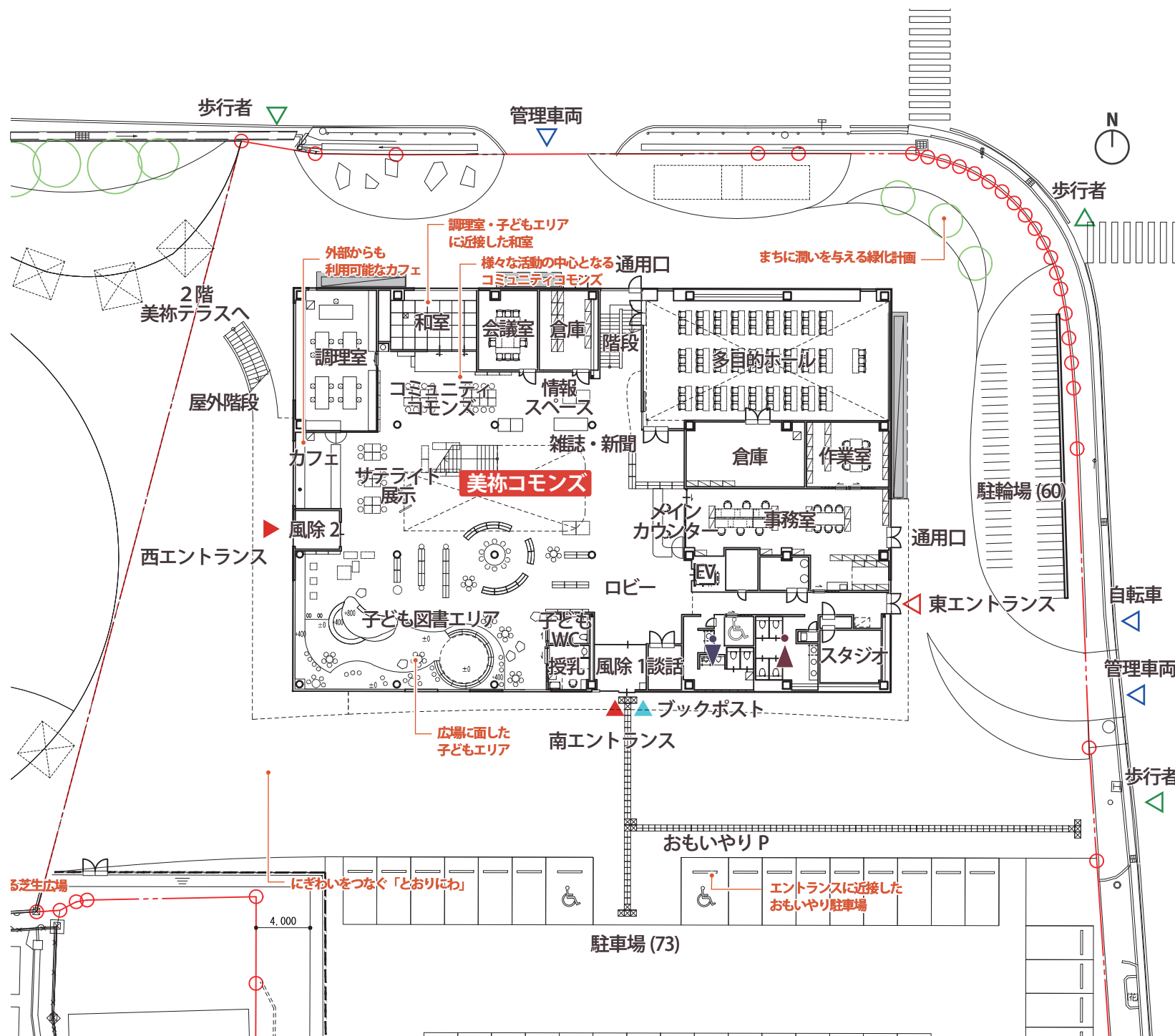
■閉架書架7段 冊数
・旧役場文書は、390箱収納可能

室名	冊数
閉架書庫	38,220

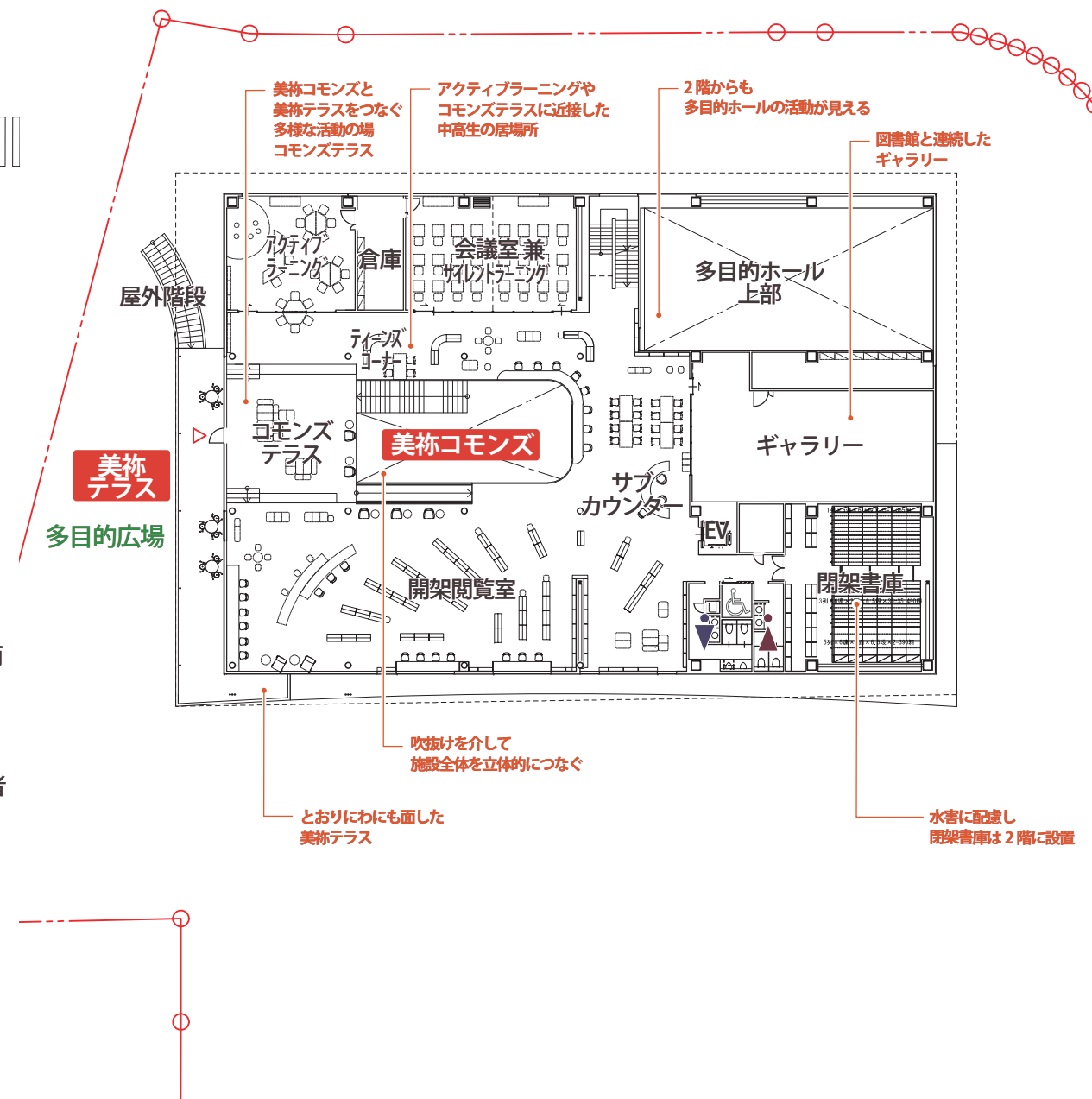
■閲覧室 単位面積あたりの蔵書数	
1990年度	10.0
1991年度	10.0
1992年度	10.0
1993年度	10.0
1994年度	10.0
1995年度	10.0
1996年度	10.0
1997年度	10.0
1998年度	10.0
1999年度	10.0
2000年度	10.0
2001年度	10.0
2002年度	10.0
2003年度	10.0
2004年度	10.0
2005年度	10.0
2006年度	10.0
2007年度	10.0
2008年度	10.0
2009年度	10.0
2010年度	10.0
2011年度	10.0
2012年度	10.0
2013年度	10.0
2014年度	10.0
2015年度	10.0
2016年度	10.0
2017年度	10.0
2018年度	10.0
2019年度	10.0
2020年度	10.0
2021年度	10.0
2022年度	10.0
2023年度	10.0
2024年度	10.0
2025年度	10.0
2026年度	10.0
2027年度	10.0
2028年度	10.0
2029年度	10.0
2030年度	10.0
2031年度	10.0
2032年度	10.0
2033年度	10.0
2034年度	10.0
2035年度	10.0
2036年度	10.0
2037年度	10.0
2038年度	10.0
2039年度	10.0
2040年度	10.0
2041年度	10.0
2042年度	10.0
2043年度	10.0
2044年度	10.0
2045年度	10.0
2046年度	10.0
2047年度	10.0
2048年度	10.0
2049年度	10.0
2050年度	10.0
2051年度	10.0
2052年度	10.0
2053年度	10.0
2054年度	10.0
2055年度	10.0
2056年度	10.0
2057年度	10.0
2058年度	10.0
2059年度	10.0
2060年度	10.0
2061年度	10.0
2062年度	10.0
2063年度	10.0
2064年度	10.0
2065年度	10.0
2066年度	10.0
2067年度	10.0
2068年度	10.0
2069年度	10.0
2070年度	10.0
2071年度	10.0
2072年度	10.0
2073年度	10.0
2074年度	10.0
2075年度	10.0
2076年度	10.0
2077年度	10.0
2078年度	10.0
2079年度	10.0
2080年度	10.0
2081年度	10.0
2082年度	10.0
2083年度	10.0
2084年度	10.0
2085年度	10.0
2086年度	10.0
2087年度	10.0
2088年度	10.0
2089年度	10.0
2090年度	10.0
2091年度	10.0
2092年度	10.0
2093年度	10.0
2094年度	10.0
2095年度	10.0
2096年度	10.0
2097年度	10.0
2098年度	10.0
2099年度	10.0
2100年度	10.0

一般開架	62冊
子ども図書エリア	44冊
□平均	54冊

【活動が混ざり合う場所】



【配置図 兼 1階平面図 S=1:500】



【2 階平面図 S=1:500】

■断面計画

■利用者と本を守り、市民活動を支える安心安全な施設

- ・1階床レベルは計画規模*の浸水レベル以上となるよう、T.P. 88. 20 に設定します。
- ・想定最大規模の浸水対策として、貴重な作品を展示するギャラリーと、貴重書を保管する閉架書庫は2階に配置します。
- ・キュービクル等は屋上に配置し、想定最大規模*の浸水から重要設備機器を守ります。

*厚狭川（上流部）洪水浸水想定区域図（山口県発行）より

計画規模：年超過確率 1/50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1/50（2%））の浸水を指す

想定最大規模：想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により厚狭川が氾濫した場合の浸水を指す

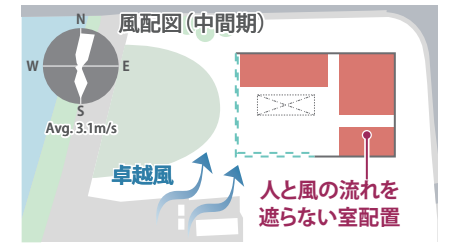
■経済性に配慮した階高設定

- ・各室の特性に応じて適切な天井高さを設定し、階高を最適化することで建物ボリュームを抑えます。
- ・1階高を抑えることで、2階や美祢テラスの距離感が近くなり、より有機的な複合を実現します。

■環境計画

■自然通風と快適な熱環境

- ・平均風速が比較的小さい計画地（平均風速 1.6m）においても卓越風をとらえられる配置とします。内部空間は、風の流れを妨げないように、館内全体に心地よい風が行き渡る設計とすることで、涼しく快適な環境を実現します。
- ・美祢 commons の吹抜けは、煙突効果による誘引を利用した中間期の効率的な自然換気を促し、非空調時でも快適な室内環境を実現します。また、吹き抜けに面して層流ファンを設けることで、冬期における暖気を2階から1階へ送ることで空調効率を向上させ、快適性と経済性に配慮した空調計画を行います。



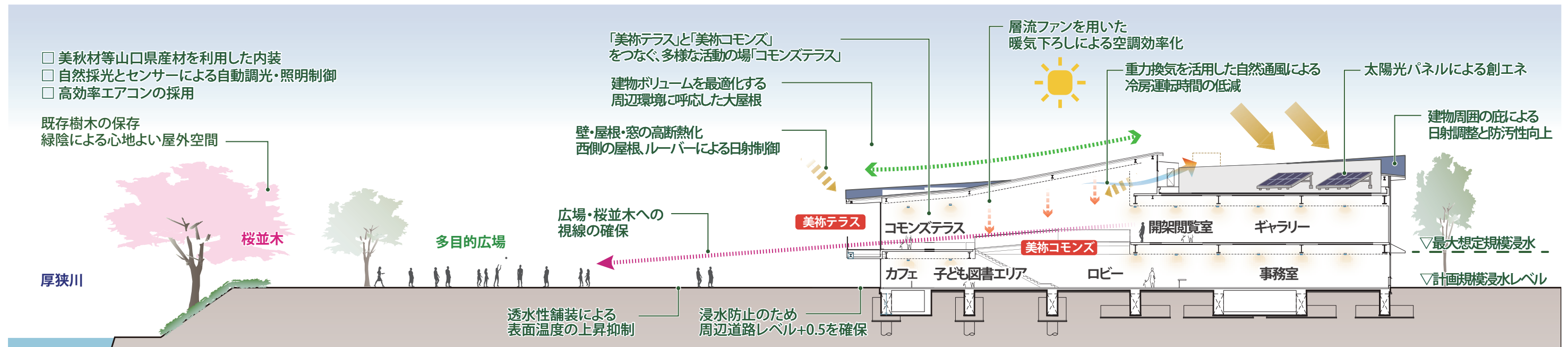
【中間期の自然通風イメージ】

■自然光を最大限に活かす光環境計画

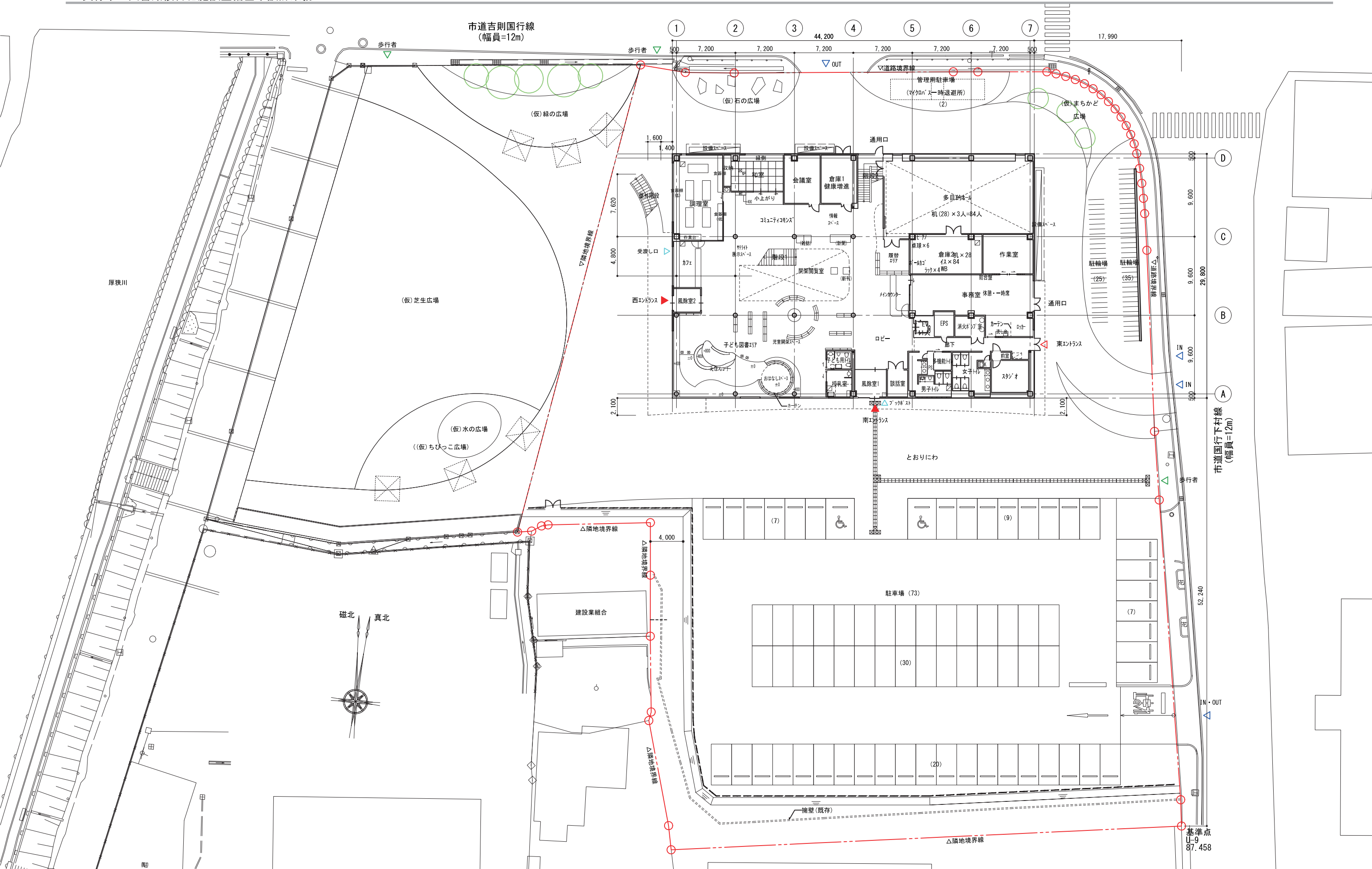
- ・厚狭川や多目的広場に開かれた空間構成としながら、大屋根や美祢テラスにより西日を有効に遮ることで、豊かな眺望の確保と日射制御の両立を図ります。

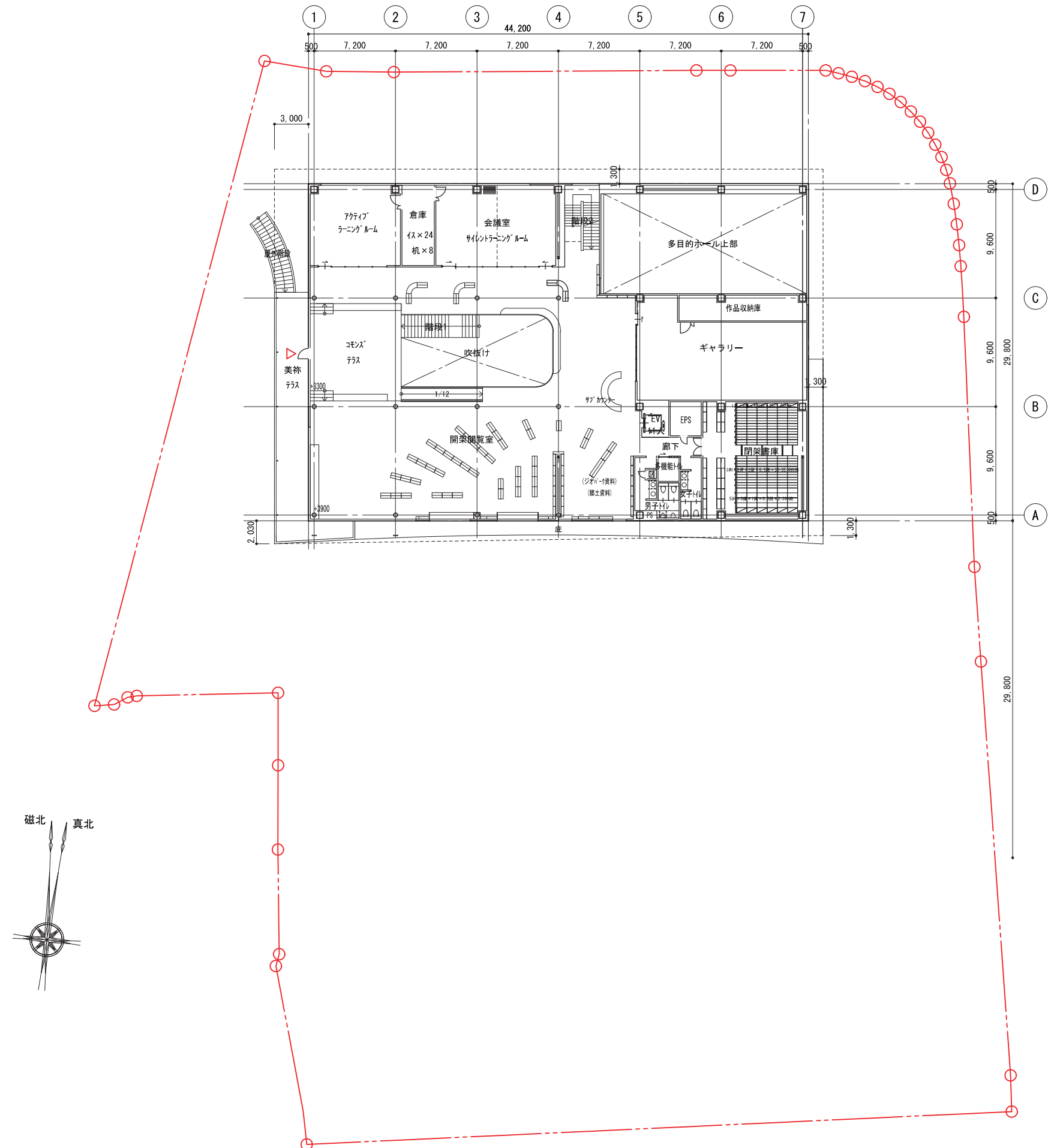
■美祢文化の魅力を育む、地域産材の活用

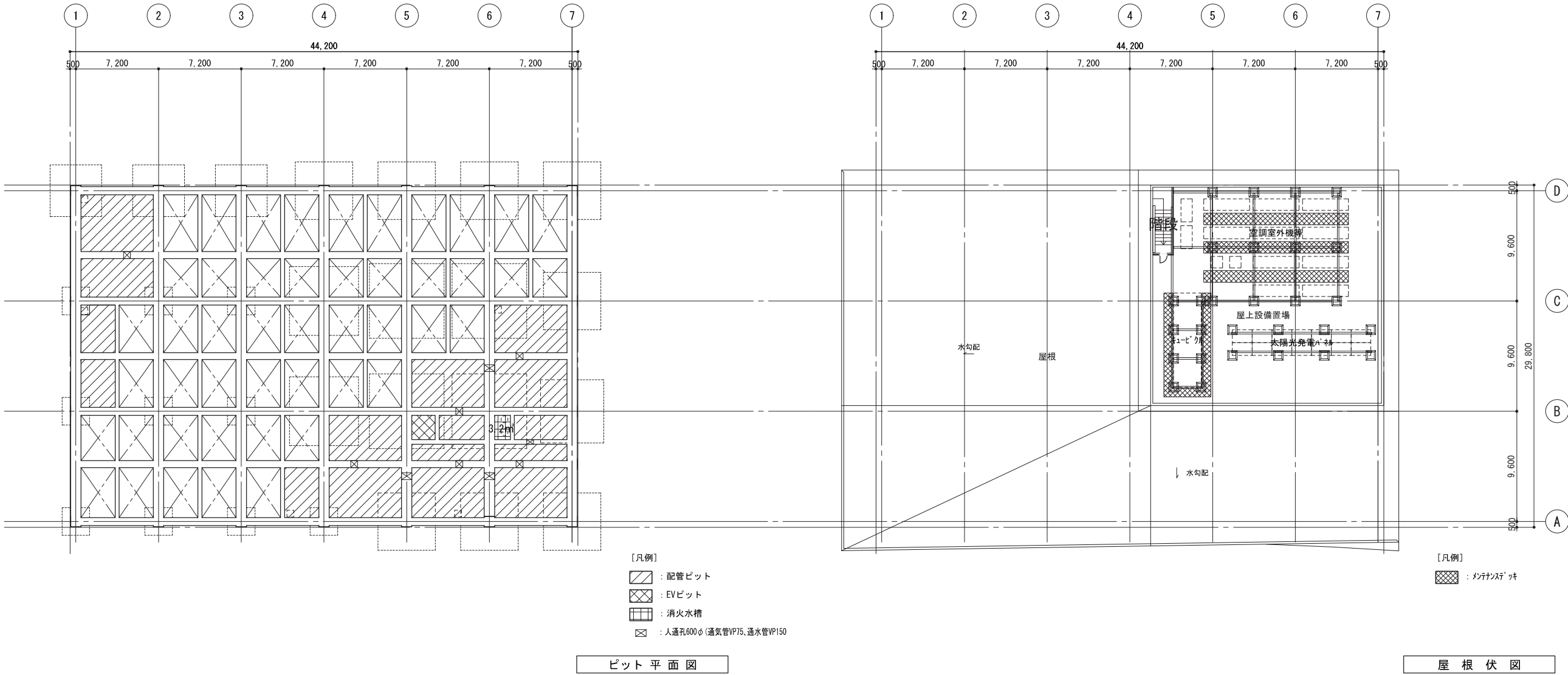
- ・美秋材や石灰石などの豊富な美祢産材について、建具や内装材、家具など、利用者の目や手に触れる部分を中心に活用することで、地域の方々に愛着を感じて頂ける施設とします。

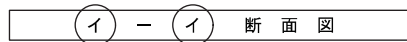


【環境と共生する断面イメージ】









■仕上凡例

(a)	金属板葺き
(b)	押出成形セメント板+DP塗装
(c)	CON化粧打放C
(d)	外部手摺
(e)	CON化粧打放B
(f)	中空ポリカーボネート板
(g)	木毛セメント板
(h)	エクスパンションジョイント

